



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

新年のごあいさつ

芦屋ユネスコ協会 会長 山中 健



皆様には輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

と、新年のご挨拶もまだできていない元旦の午後 4 時 10 分、能登半島にマグニチュード 7.6 と推定される大きな地震が発生し、多くのかたが犠牲になりました。

被災された皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

私たちはこの思いもかけなかった一報に接しましたとき、29 年前の同じく 1 月に起きたあの「阪神・淡路大震災」の朝をまざまざと思い起こしました。そして、かの寒冷の地で被災された皆様に対し私たちに何かできることはないかといろいろ思いを巡らせました。

芦屋ユネスコ協会では役員を中心に延べ 30 名が「能登の皆さん ガンバレ!」との思いを一つに、1 月 6 日・7 日・8 日の 3 連休、街頭に立ち募金活動を実施いたしました。

この 3 日間で皆様からいただいた支援額は、22 万 5,676 円。これらのご厚志は、早速 1 月 9 日、日本ユネスコ協会連盟を通して被災地の皆様へとお届けすることができました。

ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の被災地の復旧・復興が一日も早く進みますことをお祈り申し上げます。

最後に、本年が皆様にとって、また芦屋が、日本が、世界が平和で幸福な一年となりますことを祈念し、年頭のご挨拶といたします。



能登半島の皆さんが 1 日も早く元の生活に戻れますよう、芦屋ユネスコ協会も心より祈念しています！

芦屋ユネスコ協会創立 75 周年記念 2023.12.19「年末講演会 & 親睦会」開催



昨年12月19日（火）、芦屋ユネスコ協会創立75周年を記念する2023年度「年末講演会 & 親睦会」がホテル竹園を会場に盛大に開催されました。

芦屋ユネスコ協会が、このように年末に歴代の大使をお招きし講演会が開催されるようになったのは、阪神・淡路大震災後にわが協会が再スタートした2000年からです。

今回は、「創立75周年

記念式典」も兼ねての開催であったため、当日付で「創立75周年記念誌」を発行、大使をはじめ、芦屋ユネスコ協会顧問である高島市長・福岡教育長ほか出席者全員に配布いたしました。

なお当日参加できなかった会員の皆様には、1月発行「AU通信」とともにお手元にお届けいたします。なお、芦屋ユネスコ協会のホームページにはすでに掲載しておりますので、ご参照いただけましたら幸いです。

◆「芦屋ユネスコ協力会」誕生、先行実践されていたユネスコ活動

芦屋ユネスコ協会は、「協力会」として、戦後間もない昭和23年（1948年）に誕生しました。

しかしながら、それを遡る昭和21年には「民間ユネスコ精神」に賛同した当時の兵庫県連合婦人会会長・廣瀬勝代氏によって、すでに婦人会活動の中で実践されていたことが、このたび明らかになりました。この芦屋でいち早く実践された「ユネスコ精神」に則った婦人会活動が全国で最も早い「民間ユネスコ運動」への取り組みであったことを知り、芦屋ユネスコ協会の一会員として誇りに思います。

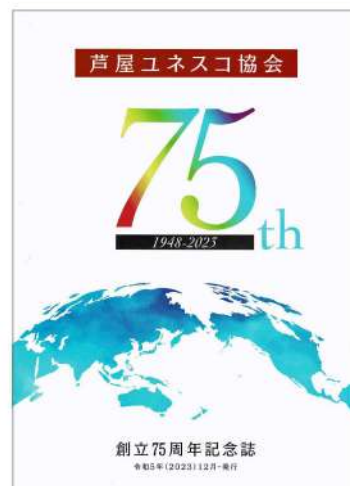
◆姫野大使のご講演

「激動の中—2024年・2025年へ—」

今回の「記念講演会」では、政府代表／特命全権大使（関西担当）の姫野勉大使から、「激動の中—2024年・2025年へ—」と題したお話を伺いました。

お話は、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ紛争に始まり、北朝鮮や台湾、そして中国との今後の関係…。

ロシアのウクライナ侵攻から来年で2年、まだまだ終結は見えません。これは、ロシアへの経済制裁がうまく機能していない。さらに2024年1月には台湾で総統選挙が実施されるが、その結果による中国の反応を注視していかないとならない。ほかにもアメリカ大統領選の行方など、まさに日本の世界への対応が試される時代です。世界に信頼される日本であるためには、戦争を起こさない現状を願う国々を仲間として増やしていかなければならないと、熱く語られました。さらに2025年に開催される「万国博覧会」には、オール関西としての協力が必要であり、芦屋でもぜひとも協力をと、話題は多岐にわたりました。





◆紙芝居「ケイちゃんの消えない雲」と ユリア・ボンダレンコさん

ウクライナから日本に避難されているアーティストのユリア・ボンダレンコさんをお招きし、今回の紙芝居をご披露しました。

本来は、毎年8月15日に開催している「平和の鐘を鳴らそう」行事の中で披露する予定でしたが、去年は台風7号の直撃により「平和の鐘を鳴らそう」行事そのものが中止となっていました。

ウクライナで美術家として活動していたボンダレンコさんは、ロシアの侵略で北部チェルニヒウから妹のいるドイツに一時逃れました。

侵略前から日本に興味を持ち、日本語を学んでいたこともあり、2023年6月に単身で来日。京都市で暮らしながら、各地で展示会を開くなど活動してきました。ロシアの核兵器使用の懸念に胸を痛めていた一昨年10月に広島市を訪れ、8歳の時に爆心地から2.4キロで被爆した体験の証言を続ける小倉さんに会い、そのメッセージを届けようと誓い、絵筆を握ったといいます。それが、今回ご披露した紙芝居の「ケイちゃんの消えない雲」。

芦屋ユネスコ協会では、当日会場でユリアさんの平和活動への支援としてのカンパを呼びかけ、閉会時にはユリアさんに7万円の平和活動支援金をお渡しすることができました。



◆親睦会 — 弓場理事ご夫妻「平和を願う歌」にブラボー！

高島 峻輔 芦屋市長（芦屋ユネスコ協会顧問）からの乾杯のご発声で2023年度「親睦会」の幕が開き、なごやかに祝宴が始まりました。



弓場真理子会員のピアノ演奏と弓場徹理事の美しいテナーの歌声には会場から「ブラボー！」の聲が上がるなど、祝宴はいよいよ盛り上がりしました。



最後のお楽しみビンゴゲームは、藤井副会長を中心に理事・会員の協力により進められ、参加された皆様も数多くの豪華景品を勝ち取り、大使・大使夫人やユリアさんをはじめ会場は一つになり、大いに楽しみました。

エンディングでは会場のみんなが輪になって「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」「蛍の光」を歌い、こうして創立75周年を祝う「2023年年末講演会 & 親睦会」は無事終了しました。

最後に、今回の司会進行をお引き受けくださいました上木敦子理事に感謝申し上げるとともに、さまざまな行事・事業に参加・ご協力くださいましたすべての会員・役員の皆様に心から感謝を申し上げます。



■ 世界寺子屋運動一書き損じはがき・キャンペーン 2024 ■

～あなたの書き損じはがきで、世界に学びのチャンス～



今年も「書き損じはがき・キャンペーン」が始まりました。

うっかり書き損じてしまった郵便はがき、未使用の切手やプリペイドカードなど、あなたのご家庭に「タンス遺産」は眠っていませんか。

ユネスコ世界寺小屋運動は、こうしたタンス遺産を募金にかえて、学びの場を世界に広げていく運動を行っています。

世界にはいろいろな理由で学校へ行けず、読み書きや計算ができない人たちがたくさんいます。一人でも多くの人たちに教育の機会を届けられるよう、「書き損じはがき・キャンペーン」を通して、ご自宅から気軽にできる国際協力にお力添えをお願いします。

カンボジアでは、あなたの書き損じはがき 11 枚で 1 人が 1 カ月間学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動に、どうかあなたのご協力をお願いします。

本キャンペーンでは、書き損じはがきだけでなく、未使用の切手や商品券、プリペイドカード類も受け付けています。切手コレクションや、未使用のテレホンカード・クオカード・図書カード、全国百貨店共通商品券、旅行券、ビール券などのタンス遺産があれば、お近くの市内 32 カ所に設置している「タンス遺産 POST(書き損じはがき回収 BOX)」へご投入いただきますか、芦屋市役所北館 4 階の生涯学習課窓口(芦屋ユネスコ協会事務局)までお寄せください。

【タンス遺産 POST(書き損じはがき回収 BOX)の配置先】

下記の市内 33 カ所に BOX を置いています。お近くの BOX をご利用ください。

- 芦屋市(教育委員会生涯学習課内ほか) ●ラポルテ 3 階市民サービスコーナー
- 市立芦屋病院 ●保健福祉センター ●上宮川文化センター ●市立美術博物館
- 谷崎潤一郎記念館 ●総合公園 ●芦屋公園テニスコート ●市立体育館・青少年センター ●市民活動センター(リードあしや 2 階) ●木口福祉財団 ●エルホーム
- シルバー人材センター ●市立精道中学校 ●市立山手中学校 ●市立潮見中学校
- 市立精道小学校 ●市立宮川小学校 ●市立山手小学校 ●市立岩園小学校 ●市立朝日ヶ丘小学校
- 市立潮見小学校 ●市立打出浜小学校 ●市立浜風小学校 ●兵庫県立芦屋高等学校
- 兵庫県立国際高等学校・国際中学校 ●県立芦屋多文化センター ●芦屋学園高等学校・中学校
- 甲南高等学校・中学校 ●クラーク記念高等学校芦屋校

編集後記

◆芦屋ユネスコ協会は創立 75 周年を迎えました。多方面からの来賓をお招きしての「記念式典」は実施せず、昨年 12 月に「記念誌」のみを発行しました。

◆「記念誌」の編集にあたり、当協会のアドバイザー・由里正雄様到大変お世話になりました。昭和 25 年から 30 年代に学生クラブメンバーとして活動されていた氏は、当時のメンバーに呼びかけて、貴重な写真や資料などをたくさんご提供くださいました。

◆昨年暮れの「年末講演会」で、資料提供者用にと由里様に「記念誌」10 冊をお預けいたしました。その由里様が、今年 1 月 5 日に 94 歳で永眠されました。感謝と、心からの哀悼を捧げます。